

令和6年度お茶の水女子大学経営協議会〔第4回〕議事録

日 時：令和7年3月18日（火）15：00～17：00

出席者：（学外委員）五十嵐委員、河村委員、久能委員、小坂委員、篠塚委員、杉村委員、豊田委員、藤崎委員

（学内委員）佐々木学長、加藤理事、新井理事、石井理事、坂元理事、谷理事、赤松副学長、太田副学長、福本副学長（事務総括）

（陪 席）宮井監事、中野監事

曹副理事、斎藤副理事、山田副理事、

新名文教育学部長、横川理学部長、飯田生活科学部長、大瀧共創工学部長

安成大学院人間文化創成科学研究科長

I. 議事録（案）の確認

記録内容及び大学ホームページへの掲載について、了承した。

小坂委員より議事録の簡略化について提案があり、本学において検討することとした。

II. 審議事項

1. 令和7年度国立大学法人お茶の水女子大学年次計画（案）について

坂元理事より、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

2. 令和7年度学内予算（案）について

加藤理事より、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

これに関連し、小坂委員より、教職員の人件費増大が国立大学の教育費や研究費の減少に繋がっている現状に対し、国立大学の経営協議会が団結し運営費交付金の増額を訴えることができるのではないかとの意見があり、検討することとした。

3. 令和6（2024）年人事院勧告（令和7年4月1日適用分）等を踏まえた本学の給与制度の見直しに伴う関連規則の一部改正について

加藤理事より、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

4. 役員に対する退職手当の業績勘案率について

佐々木学長より、役員に対する退職手当の業績勘案率について、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

III. 報告事項

1. 事務職員が法人経営に関わる業務体制の検討状況について

加藤理事より、資料に基づき説明があり、国立大学法人お茶の水女子大学事務組織改革検討プロジェクトチームがとりまとめた報告書に基づき、令和7年4月から組織改組を行うことの報告があ

った。

2. お茶の水女子大学同窓会館跡地整備事業について

加藤理事より、資料に基づき、令和7年1月31日付けで野村不動産株式会社と定期借地権設定契約を締結したことの報告があった。

3. 外部資金獲得状況について

石井理事より、資料に基づき説明があり、外部資金獲得状況の速報値についての報告があった。

4. 令和7年度入学試験実施状況について

新井理事より、資料に基づき報告があった。

5. その他

(1) 令和7年1月～3月における本学の主な活動について

赤松副学長より、資料に基づき報告があった。

IV. 意見交換

1. 1年間の振り返り

佐々木学長より、今年度あるいは4年間を通しての意見や助言を願いたい旨依頼があった。

■学外委員からの主な意見等は以下のとおり。

五十嵐委員：日本の研究力や産業競争力がこの数十年間低下傾向にある要因の一つが女性活躍の促進が不十分であるということ間違いない。お茶大のミッションが実現できればこれが上向いてくるといふ事例として、お茶大が取り組み続けてきた成果、アウトカムを聞きたい。

河村委員：国立大学の厳しい財務状況について、経営協議会委員として一緒に考えていきたい。監事1名が常勤となり、学内の状況を把握しやすい体制となったことによる気づきを経営に活かせるとよいのではないか。

小坂委員：博士人材について、一般社団法人日本経済団体連合会「採用と大学教育の未来に関する産学協議会」における議論では、産学の連携を進めて、専門性の高い優秀な博士人材を採用していきたいという企業側の大変強い意見があった。大学側がより多くの意欲ある女性研究者を育成し、企業も博士人材を多く採用する時代だと考えている。

篠塚委員：現在のデジタル化の急速な進展に際して、生成AIに関する教員の活動についても、全学の学生や教員が見られるような形で情報を提供して欲しい。財務の問題については、授業料についての議論や寄附を集めることの検討を積極的に行うべき時期に来ていると思われる。

杉村委員：世界でも国立の女子大学があるのは珍しく、お茶大でないとできない研究分野や教育をさらにこの機に伸ばしていくとよいかと思うので、周年を迎える今、お茶大の伝統とレガシーのようなものを振り返ってみるとよいのではないか。

豊田委員：A Iの利用について、人間に取って代われない部分は二つあり、一つは人間の間接的な関係の中から得られるニュアンスのある世の中の理解ということ、二つ目は誰もしたことのない質問する能力だと思う。大学はまさに問題を設定して、それをどう解決するかということができる女性リーダーを求めていると思うので、お茶大の目指す方向と、A Iが取って代われないものは何かを考えることはかなり一致するのではないかと思う。

藤崎委員：大学がグローバルリーダーを育てていくなれば、英語による授業をどれだけ増やしていけるかが大事なことだと思う。また、創立150周年記念事業として国際的な催し等も行うとよいのではないか。

久能委員：今日が最後の参加となるが、お茶大での経営協議会委員としての業務は面白く、将来性も強く感じた。大学等のリーダーシップスタイルは、今後サーバントリーダーシップと言われるような形になることを予想していたところ、今、お茶大の執行部はその点で理想的な形で経営をしていると思われるので、自信を持ってほかの大学にも広げていくとよいのではないか。

V. その他

1. 令和7年度 主要行事予定表について

令和7年度 お茶の水女子大学経営協議会 開催日程

佐々木学長より、資料に基づき案内があり、次年度経営協議会についてご予定いただきたい旨を連絡し、次回開催は令和7年6月24日（火）であることを確認した。

○ 令和6年度末で退任する久能委員、新井理事、赤松副学長、太田副学長より挨拶があった。

以 上